

## 児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 4年 2月 25日

事業所名 児童発達支援事業所 かめさんち

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	・机上活動時は適切であるが、活動によっては、戸外を利用したり、分散したりして対応している。 ・集まり室の広さをパーティションで調整したり、人数によっては活動場所を変更して対応している。	・身体遊び等の時、十分な広さや安全面で不十分と感じるので、屋外施設や公共施設等を利用しての活動を増やしていく。
	2	職員の配置数は適切である	7	0	・配置基準よりも常勤換算で2.8名多く職員を配置している。	・活動の内容によって丁寧な支援が必要とされる際には足りないと思うことはあるので、勤務シフトの調整をしていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	3	・常日頃、生活の様子から改善すべき点はないのかとの思いで環境を整えるように心がけてはいる。 ・視覚的にわかりやすい場所は増えてきている。もう少し整理されると、なお分かりやすいと思う。	・トイレや洗い場が近くにあるとよい。 ・棚等の整理をし、誰が見てもわかるようにする。 ・在籍している子どもたちの成長や個性に応じて環境設定していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	・コロナの影響もあり、消毒等に意識して取り組んでいる。 ・活動に応じて机や道具等、検討して配置しているが、活動中に支障を感じた際は変更や移動をしている。	・パーティションのあり方など今後も子どもの状況にあった環境作りに気を付けていきたい。 ・消毒、清掃は定期的実施しているが、時には整頓されていないことがある為、気をつけたい。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	・勤務の関係で振り返りできないこともあるが、職員研修の時等に共有している。 ・療育内容、一人一人の子どもへの支援について検討し、振り返ることができるように努めている。	・もう少し内容を深めたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	・意向によって改善策について話し合い、対応できるようにしている。	・今後も保護者の意向を把握し、変更改善できるところは変更していきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	・事業所内での話し合い後、ホームページで公開している。	・今後もホームページ等での公開を継続していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4	・幼稚園や保健センターなどのスタッフの見学を受け入れている。	・外部の方からの評価をいただく機会を作っていきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	・今年度から、毎週会議及び研修の時間を確保し、必要に応じた内容での研修が実施されている。	・研修の機会は増えたが、学ぶことへのモチベーションは各自で差があるように感じるので、意欲の向上を図っていきたい。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	1	・計画作成に保護者との面談を実施し、ニーズや課題を分析後、作成している。	・子どもと保護者のニーズを丁寧に把握できるスキルと支援計画に落とし込むスキルを高めていきたい。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	・これまでのモニタリングに加え、太田ステージ、新版K式を導入している。	・スタッフそれぞれの評価の統一性を高めていきたい。

適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	0	・作成後、支援内容に対して必要な項目が適切に選択されているかを確認するようにしてる。	・今後も、ガイドライン項目に照らし合わせながら、支援計画を作成していきたい。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	・週案作成時に計画支援をもとに内容や目標を計画するようにし、打合せ時に具体的に伝達できるよう努めている。	・もう少し内容を深めた支援が必要だと感じるので、しっかりとアセスメントを行い、支援スキルを高めていきたい。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1	・リーダーが計画を立てるが、打合せで意見を出す等している。 ・詳細な計画については単独で行っているが、改善点や子どもにとって必要な支援内容、活動について話し合った上で立案するよう努めている。	・スタッフ間の意見を組み合わせて、プログラムを築いていきたい。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	・年齢や個性によってあえて固定化する内容もふまえた上で、時期、種類、目的等を配慮して計画している。 ・その日の子どもの狙いによって、内容を変えている。	・それぞれの子どもの目標に合わせて、プログラムを作っていきたい。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	5	1	・勤務の関係で午前の打ち合わせができない場合がある活動の予定表やその都度わからない事は聞く。 ・個別活動にて、一人一人の状況に応じた支援ができるように取り組むと共に、集団活動での支援方法を計画しながら作成している。 ・必要に応じて個別活動を導入している。	・今後も、個別と集団活動を行えるような人員配置を行っていく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	・朝礼などを毎日行い、支援の内容や目的を確認するようにしている。	・午前については、打合せ時に不在の職員もいることから、前日までに伝達するよう努めているが、直前の変更等の伝達が不十分な時もあるので、伝達漏れがないように努めていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	・打合せについては全員で行うことは勤務状況によっては難しい日もあるので、個別に共有し、全体で検討する内容については、会議や朝礼にて共有できるように努めている。	・今後も、情報の共有をしっかりと行っていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	2	・振り返りでの内容を踏まえ、日々の支援を記録し、現況の確認、今後の課題に気づけるような内容が記載できるように工夫している。	・誰が読んでもわかりやすい記録となるように努めていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	・6ヶ月を目安としながら、子どもの様子に応じては、その都度見直せるように対応している。	・定期的以外にも変更が必要でないか検討していく。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	・児発管や担当者など複数で参加できる場合には複数参加している。	・参加しやすい職員配置を行っていく。
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0	・保健センターや幼稚園等と連絡を取り合いながら、支援を行っている。	・幼稚園等については、連携をとる頻度に差がある場合があるので、より丁寧な連携を行っていきたい。	

関係機関や保護者との連携

23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	0		
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	1		
25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	3	・入園前に関しては、保護者からの要望による支援をしている。入園後は、保護者の同意のうえで情報共有できるように努めている。	・訪問している園としていない園がある為、更新モニタリングの時期には訪問した方がよいと思うので、モニタリングを基準に訪問できるようにしていく。 ・今は、横の連携が少ないように感じるので、園との連携をもっと密にし、子どもがより安心して通える環境作りをしたい。
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	・概ね3月ごろに引継ぎを兼ねて各学校に行き話し合いを行っている。	・継続して情報共有に努めていく。
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	・必要に応じて連絡を入れて話をしている。	・薩摩川内市に専門機関が増え、さらに連携していくことは必要と思う。 ・連携している部分もあるが、もう少し一人一人に対して計画的に会議をしたりして協力していけるといいと思う。継続することが大事。
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	5		・コロナのため開催されていない。 ・コロナの影響をうけ実施に踏み切れなかった。感染状況を踏まえ、交流が実施できればと思う。
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	0	・児童発達管理責任者判断にて可能な会議には参加できている。	・交代でも多くのスタッフが参加できるような体制をとっていきたい。
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	・振り返り等で、伝えるようにしている。 ・対応する職員を限定することではなく、保護者と送迎時に話し、内容については職員間で共有できるように伝えたり、ボードに記入したりしている。	・振り返りや送迎時話をしているが、個人差はあるので、丁寧な説明に行っていきたい。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	5	・家でのかわり方など、個別では対応している。	・今年度ペアレントトレーニングの研修後、来年度実施していく。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	・入所時、及び新年度に行っている。	・丁寧な説明に努めていく。
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	1	・説明時に口頭で説明するように努めている。	・計画の提示が遅くなっている為、書類業務の時間を自分でも意識し、計画を作成していきたい。
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	・半年に一度を基本とし、就学については事前に見通しが高まるように話をする機会を作っている。	・話やすい環境を整えていきます。

保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	・月に1回茶話会を計画している。 (コロナ禍で実施できない月もあった) (参加者が少なくなってきた)	・茶話会の宣伝など、ますます保護者同士がつながっていける活動を考えていきたい。 ・茶話会でテーマを設けて行くと、同じ悩みを持つ保護者とのつながりができるかなと思う。 ・茶話会内容の検討はできているが、改善されていない。連携を深める企画を実施していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	・送迎時に限らず相談事があればすぐに対応することを周知したうえで申し入れに応じている。	・申し出があった場合はできるだけ早い日程調整を行っていきたい。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	・月ごとの活動の様子や取り組んでいることを月報にのせることで、午前、午後両方の内容が分かるようにしている。 ・月に一度の月報を発行している。	・月報の内容をより分かりやすいものにするように検討していきたい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	・会議などで定期的に個人情報への意識を高めるように注意喚起している。 ・写真の取り扱いについても保護者にアンケートを取っている。	・定期的に個人情報の取り扱いについて、話し合う機会を作っていく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	・専門用語を避け分かりやすい言葉での表現を心がけている。	・わかりやすい表現に心がけ、伝わったかの確認などを行っていきたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5		・積極的に関わる機会を検討していきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	1	・それぞれのマニュアルを作成している。	・マニュアルについては定期的に見直し、職員や保護者へは、更に周知していく。 ・ホームページへも保護者版を掲載していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	・前年度よりも訓練回数を増やした。	・利用される日によって、訓練に参加できない場合に向けて、広報を行っていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	1	・入園時にや年度ごとに調査票にて確認している。	・さらに丁寧に確認をしていく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	・食物アレルギーに関しては、把握をしている。	・医師への確認もしながら対応していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1	・ヒヤリハットは作成して、共有をしている。	・様式を再検討して、活用しやすいものにしていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	・県の研修に毎年参加したり、事業所内での研修をしたりしている。	・研修の機会を増やして、更に意識を高めていきたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	0	・事前に話し合っている。	・必要性を会議で話し合い適切に関わっていきたい。